

## 実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科					
授業名,属性	解剖学		必修	1年前期	20コマ・40時間			
担当教員	佐藤 巍	背景	医科系大学教員43年					
授業形態	講義	実務家教員 ある						
受講ルール	共通ルール							
受講条件	特になし							
教科書等	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学							
<b>授業概要</b> 人体の構造と機能を理解するため作業療法士に必要な基礎的知識の説明と、医学全体における位置づけを明らかにする。								
<b>狙いと到達目標</b> 人体の構造と機能を理解するための基礎的知識の修得と、立体的位置関係を理解する。人体の解剖学的名称を列挙出来、骨格系から内臓、神経系までの働きを説明出来る。								
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> 臨床現場での解剖に関する項目は多く、各器官の構造を理解、説明できることは重要である。このために解剖学的名称から始まる一連の基本的解剖学的知識を使いこなせることは医療人には不可欠である。そのために医学の基盤科目である解剖学の習得は重要である。								
<b>授業計画・内容</b>								
1	解剖学の歴史と概論							
2	骨学総論							
3	脊柱と体幹の骨							
4	上肢と下肢の骨							
5	骨盤と頭蓋の骨							
6	骨の連結と靭帯							
7	筋学総論							
8	体幹の筋							
9	上肢帯の筋							
10	上肢の筋							
11	下肢帯の筋							
12	下肢の筋							
13	循環器総論							
14	心臓と刺激伝導系							
15	動脈系 頭部							
16	動脈系 体幹（含む内臓）							
17	動脈系 四肢							
18	静脈系・胎児循環							
19	リンパ系							
20	免疫							
評価方法	前期・後期で定期試験を実施。 60%に満たない場合はそれぞれの期で再試を行う。							
<b>自由記述 (メッセージ)</b>								

## 実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名・属性	解剖学		必修	1年後期	20コマ・40時間
担当教員	佐藤 巍	背景	医科系大学教員43年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学				
授業概要	人体の構造と機能を理解するため作業療法士に必要な基礎的知識の説明と、医学全体における位置づけを明らかにする。				
狙いと到達目標	人体の構造と機能を理解するための基礎的知識の修得と、立体的位置関係を理解する。人体の解剖学的名称を列挙出来、骨格系から内臓、神経系までの働きを説明出来る。				
授業において実務経験をどのように生かすか	臨床現場での解剖に関する項目は多く、各器官の構造を理解、説明できることは重要である。このために解剖学的名称から始まる一連の基本的解剖学的知識を使いこなせることは医療人には不可欠ある。そのために医学の基盤科目である解剖学の習得は重要である。				
授業計画・内容					
1	内臓学総論				
2	口腔と咽頭				
3	食道と胃				
4	小腸・大腸				
5	肝臓と脾臓				
6	呼吸器総論(鼻と咽頭)				
7	気管と気管支。肺				
8	横隔膜と呼吸運動				
9	泌尿器総論				
10	腎臓				
11	尿管、膀胱、尿道				
12	排尿の仕組み				
13	生殖器総論				
14	生殖器(男性生殖器)				
15	生殖器(女性生殖器)				
16	胎盤、胎児、発生				
17	内分泌総論				
18	視床下部、下垂体				
19	甲状腺、胸腺、上皮小体				
20	副腎、ランゲルハンス島・その他の内分泌腺				
評価方法	前期・後期で定期試験を実施。 60%に満たない場合はそれぞれの期で再試を行う。				
自由記述 (メッセージ)					

## 実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科							
授業名・属性	解剖学実習		必修	1年通年	30コマ・ 60時間					
担当教員	佐藤 巍	背景	医科系大学教員43年							
授業形態	実技	実務家教員 である								
受講ルール	共通ルール									
受講条件	特になし									
教科書等	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学									

### 授業概要

人体の構造と機能を理解するため作業療法士に必要な基礎的知識の説明と、医学全体における位置づけを明らかにする。

### 狙いと到達目標

人体の構造と機能を理解するための基礎的知識の修得と、人体の立体的位置関係を理解する。人体の解剖学的名称を列挙出来、骨格系から内臓、神経系までの動きを図で説明出来る。数グループに分かれ、標本の観察とスケッチを通して人体の構造と機能を理解する。各セクションごとにグループ発表し、説明能力を養う。

### 授業において実務経験をどのように生かすか

臨床現場での解剖に関する項目は多く、患者に各器官の構造を理解、説明できることは重要である。このために解剖学的名称から始まる一連の基本的解剖学的知識を使いこし、具体的に患者に説明できることは医療人には不可欠ある。そのために医学の基盤科目である解剖学の演習を通して図や教材を通して説明できることを目指す。

### 授業計画・内容

- 1 人体骨格標本(全身)と関節種類模型をスケッチする。
- 2 (1)頭部、体幹、四肢を構成する骨の連結を確認し、骨の名称を記入する。
- 3 (2)頭部、体幹、四肢を構成する骨の連結を確認し、骨の名称を記入する。
- 4 (3)頭部、体幹、四肢を構成する骨の連結を確認し、骨の名称を記入する。
- 5 グループによる骨の特色を発表する
- 6 人体筋標本(全身)をスケッチする。
- 7 (1)頭部、体幹、四肢を構成する筋と骨の位置を確認し、付着の名称を記入する。
- 8 (2)頭部、体幹、四肢を構成する筋と骨の位置を確認し、付着の名称を記入する。
- 9 (3)頭部、体幹、四肢を構成する筋と骨の位置を確認し、付着の名称を記入する。
- 10 グループによる筋の特色を発表する
- 11 心臓模型と教科書の心臓の図をスケッチして名称を記入する。
- 12 血管系模型と教科書の図をスケッチして名称を記入する。
- 13 静脈と動脈の違いを体幹の模型からスケッチして違いを調べる。
- 14 グループによる血管系の特色を発表する
- 15 脳模型により脳を構成する各部位の位置を確認し、名称を記入する。

16	伝導路と大脳・小脳の講義と模型による図説
17	求心性伝導路の模型を作る。
18	遠心性伝導路の模型を作る。
19	脳神経の講義と模型による図説
20	12脳神経の分布と働きをスケッチして経路を記入する。
21	脊髄神経の講義と模型による図説
22	末梢神経系模型による神経の分布と筋の動きをスケッチして経路を記入する。
23	体幹(消化器)の模型から内臓の位置を確認し、スケッチして違いを調べる。
24	呼吸器模型から各部位の位置を確認し、名称を記入する。
25	体幹(泌尿器)の模型から内臓の位置を確認し、スケッチして違いを調べる。
26	体幹(生殖器)の模型から内臓の位置を確認し、スケッチして違いを調べる。
27	感覚器の講義と模型による図説
28	感覚器の講義と模型による図説
29	感覚器の講義と模型による図説
30	感覚器の講義と模型による図説
評価方法	前期・後期で定期テストを実施。* 60%に満たない場合はそれぞれの期で再試を行う。 定期テスト(90%)、スケッチ・発表(各5%)
自由記述 (メッセージ)	スケッチブック(B4サイズ)を各自用意してください。

実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名・属性	生理学		必修	1年通年	40コマ・80時間
担当教員	渡邊 利明	背景	臨床・基礎研究および教育経験をふまえて医学教育に従事		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第4版 医学書院				
授業概要	生理学について教科書を中心にプリントや画像・映像資料・事例を交え講義する。				
狙いと到達目標	医療従事者として必要な生理学の基礎を習得させることを目標とする。				
授業において実務経験をどのように生かすか	経験をもとに、最新の高等研究教育情報を用いて、眼前のベッドサイドを意識した教育方針をもって医学教育を行う。				
授業計画・内容					
1	生命現象と人体①				
2	生命現象と人体②				
3	生命現象と人体③				
4	細胞の構造と機能①				
5	細胞の構造と機能②				
6	細胞の構造と機能③				
7	神経の興奮伝導と末梢神経①				
8	神経の興奮伝導と末梢神経②				
9	神経の興奮伝導と末梢神経③				
10	神経の興奮伝導と末梢神経④				
11	(前期中間試験)				
12	中枢神経系①				
13	中枢神経系②				
14	中枢神経系③				
15	中枢神経系④				
16	筋と骨①				
17	筋と骨②				
18	筋と骨③				
19	筋と骨④				
20	総括				

21	感覚①
22	感覚②
23	感覚③
24	感覚④
25	血液①
26	血液②
27	血液③
28	血液④
29	心臓と循環①
30	(後期中間試験)
31	心臓と循環②
32	心臓と循環③
33	心臓と循環④
34	呼吸とガスの運搬①
35	呼吸とガスの運搬②
36	呼吸とガスの運搬③
37	呼吸とガスの運搬④
38	総括①
39	総括②
40	総括③
評価方法	試験、ノート点、レポート点を加味して成績を評価する。
自由記述 (メッセージ)	

**実務家教員**

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科							
授業名,属性	生理学実習		必修	1年通年	30コマ・ 60時間					
担当教員	渡邊 利明	背景	臨床・基礎研究および教育経験をふまえて医学教育に従事							
授業形態	実技	実務家教員 である								
受講ルール	共通ルール									
受講条件	特になし									
教科書等	岡田孝雄ら『生理学』改訂第5版(標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野)医学書院									
授業概要	ヒトを対象とした生理学的・行動学的指標の測定とその評価と実習の成果発表をグループ学習で実施する。									
狙いと到達目標	講義や教科書などで得られた生理学に関する知識を実験や観察、グループワークによって印象づけ、より理解を深めることを目標とする。									
授業において実務経験をどのように生かすか	経験をもとに、最新の高等研究教育情報を用いて、眼前のベッドサイドを意識した教育方針をもつて医学教育を行う。									
授業計画・内容										
1	尿の生成と排泄1 腎臓の機能、ネフロンの構造と働き									
2	尿の生成と排泄2 尿細管の再吸収と分泌									
3	尿の生成と排泄3 腎機能の評価、排尿									
4	酸塩基平衡 pHとは、アシドーシスとアルカローシス									
5	消化と吸收1 消化管の構造、口腔、食道									
6	消化と吸收2 胃の消化、小腸の消化と吸收									
7	消化と吸收3 肝臓の働き、胆汁の成分と働き									
8	消化と吸收4 脾液の成分と働き、大腸									
9	内分泌1 内分泌の仕組み、ホルモンの分類									
10~11	内分泌2 内分泌臓器とホルモン									
12	生殖と発生1 女性の生殖(関与するホルモン、性周期)									
13	生殖と発生2 女性の生殖(妊娠と分娩)、男性の生殖									
14	代謝と体温1 栄養素(種類と代謝)、エネルギー代謝									
15	代謝と体温2 体温の調節									
16~17	運動系実習									
18~19	呼吸器系実習									
20~21	消化器系実習									
22~23	血液系実習									
24~25	泌尿器系実習									
26~27	神経系実習									
28~29	感覚系実習									
30	まとめ									
評価方法	試験、ノート、レポート、小テストを加味して成績を評価する。									
自由記述 (メッセージ)										

## 実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科												
授業名・属性	運動学		必修	1年後期	20コマ・40時間										
担当教員	渡邊悠馬・武藤友和	背景	作業療法士歴7年												
授業形態	講義	実務家教員 である													
受講ルール	共通ルール														
受講条件	特になし														
教科書等	武藤:特になし(配布資料を行う) 渡邊:15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 運動学(中山書店) プロが教える 筋肉のしきみ・はたらきパーカーフェクト辞典 参考資料:基礎運動学 第6版 (医歯薬出版)														
<b>授業概要</b>															
体幹・股関節・膝関節・足関節の構造と機能(運動)についての知識を身につける。また、ヒトにおける歩行動作の意味を理解する。(武藤) 作業療法を実施する上で、臨床で人間の運動を治療的に分析できるようになるため、上肢の運動器に関する構造と機能についての基本的知識を習得する。(渡邊)															
<b>狙いと到達目標</b>															
各関節の構造を理解し、その機能(運動)についての意味を理解することができる。また、運動学的な知識を応用し歩行動作についての意味を身に着ける。(武藤) 各関節の構造・機能を理解し、動作を運動学的視点で分析できるようになる。(渡邊)															
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b>															
実臨床でヒトの動きを評価のために使用してきた運動学知識を生かす。															
<b>授業計画・内容</b>															
1	オリエンテーション、運動学について														
2	筋学総論														
3	股関節の構造と機能(1)														
4	股関節の構造と機能(2)														
5	膝関節の構造と機能(1)														
6	膝関節の構造と機能(2)														
7	足関節・足部の構造と機能														
8	体幹の構造と機能														
9	バイオメカニクス														
10	歩行動作														
11	運動器の構造と機能														
12	肩複合体の運動学														
13	肘関節・前腕の運動学														
14	手関節・手指の運動学														
15	姿勢														
16	動作の記述①														
17	動作の記述②														
18	動作の記述③														
19	顔面と頭部の運動学														
20	運動学習														
評価方法	筆記試験														
自由記述															
<b>1回目～10回目</b> <b>武藤担当</b>															
<b>11回目～20回目</b> <b>渡邊担当</b>															

実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科							
授業名・属性	人間発達学		必修	1年後期	10コマ・ 20時間					
担当教員	北村 弥生	背景	障害者リハビリテーション研究・教育歴10年以上							
授業形態	講義、グループワーク	実務家教員	である							
受講ルール	共通ルール、教科書持参									
受講条件	特になし									
教科書等	人間発達学(医学書院)上田礼子著									
<b>授業概要</b>										
出生から死までの生物的、精神的、社会的な人間の発達について、平均像と機能制限がある場合について知識を得る。										
<b>狙いと到達目標</b>										
発達段階の捉え方、各発達段階における発達課題を理解する。										
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b>										
担当する患者の過去、現在、将来およびについて、理解、想定する際の根拠とする。また、患部の機能だけでなく、社会性などの機能に配慮する必要性の根拠とする。										
<b>授業計画・内容</b>										
1	総論									
2	乳幼児期と学童期:身体									
3	乳幼児期と学童期:運動									
4	乳幼児期と学童期:認知									
5	乳幼児期と学童期:情緒									
6	乳幼児期と学童期:社会性									
7	乳幼児期と学童期:パーソナリティ									
8	青年期									
9	成人期									
10	老年期									
11	出生と末期									
12	横断的話題:データ									
13	横断的話題:文献									
14	横断的話題:災害									
15	横断的話題:家族									
評価方法	期末試験(筆記)、小レポート(中間1回)									
<b>自由記述 (メッセージ)</b>										

実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科					
授業名・属性	病理学概論		必修	1年後期	10コマ・20時間			
担当教員	山 美喜子	背景	東京歯科大学病理学講座で病理組織診断担当					
授業形態	講義	実務家教員 である						
受講ルール	共通ルール							
受講条件	特になし							
教科書等	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学 第4版							
<b>授業概要</b> 病理学の基本的概念を理解し、国家試験に必要な要点を把握する。								
<b>狙いと到達目標</b> 病理学総論を中心に、関連した国家試験に出題頻度の高い疾患について解説する。各授業に小テストを行い、教員、学生相互に理解の度合、授業の要点について確認を行う。								
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> 病理診断医としての経験を基に、医療における病理医の役割、作業療法との関連について授業を取り上げる。								
<b>授業計画・内容</b>								
1	病理学の概要、病因論 病理学の意義、主な外因							
2	退行性病変、代謝障害 退行性病変とは、代謝障害による疾患							
3	進行性病変、循環障害 進行性病変とは、主な循環障害							
4	炎症、感染症1 形態学的变化(主に循環障害)							
5	炎症、感染症2 炎症の分類							
6	免疫1 免疫担当細胞、抗原、抗体の種類と働き							
7	免疫2 免疫異常(主にアレルギー)							
8	腫瘍 肿瘍細胞の特徴、良性と悪性の違い							
9	先天異常1 遺伝性疾患(種類と特徴)							
10	先天異常2 染色体異常による疾患(種類と特徴)							
評価方法	期末テストの成績							
<b>自由記述 (メッセージ)</b>								

実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科																																
授業名・属性	一般臨床医学 I		必修	1年前期	15コマ・30時間																														
担当教員	熊本恵美子	背景	臨床職歴31年 教育歴5年																																
授業形態	講義、グループワーク	実務家教員 である																																	
受講ルール	共通ルール																																		
受講条件	特になし																																		
教科書等	教科書なし、レジュメ・プリントを配布 参考書:PT・OT・STのための 一般臨床医学 第3版 医歯薬出版																																		
授業概要	チーム医療の一翼を担うリハビリテーション医療者として、理解しておくべき臨床科目の概要を理解する。																																		
狙いと到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各臨床科目の特徴を大づかみに記述することができる。</li> <li>・授業内容の疑問について、解決方法を表現することができる。</li> <li>・各臨床科目について、自分の体験や考えをグループワークで表現できる。</li> <li>・グループワークで、他者の個別性や多様性を感じることができる。</li> <li>・医療への興味・関心や自己の学習課題について、主体的に考え始めることができる。</li> </ul>																																		
授業において実務経験をどのように生かすか	臨床経験での症例や自身の体験および社会的関心の高い事象を織り込みながら、授業を展開していく。それにより、受講生が具体的にイメージしながら、主体的に授業に臨めるようにしていきたい。																																		
授業計画・内容	<table border="0"> <tr><td>1</td><td>一般臨床医学概論:診療科区分、診断・検査法、治療法</td></tr> <tr><td>2</td><td>医療安全、チーム医療、感染防止、診療録</td></tr> <tr><td>3</td><td>救命救急医療:医療体制、心肺蘇生、ショック</td></tr> <tr><td>4</td><td>呼吸管理、輸血、救急処置</td></tr> <tr><td>5</td><td>外科総論:機械的損傷、非機械的損傷、感染性疾患、</td></tr> <tr><td>6</td><td>血行障害、腫瘍、臓器移植</td></tr> <tr><td>7</td><td>消化器、神経、筋・骨格疾患</td></tr> <tr><td>8</td><td>泌尿器・生殖器疾患:解剖・生理、診断・検査法・主な疾患</td></tr> <tr><td>9</td><td>婦人科・産科疾患:解剖・生理、主な疾患、妊娠、分娩</td></tr> <tr><td>10</td><td>皮膚疾患:解剖・生理、症状・病態生理、主な疾患</td></tr> <tr><td>11</td><td>眼疾患:眼の構造、検査法、症候、主な疾患</td></tr> <tr><td>12</td><td>耳鼻咽喉科疾患:耳疾患、鼻疾患、咽頭・喉頭疾患、気道・食道疾患</td></tr> <tr><td>13</td><td>精神、心療内科疾患、発達障害:症状・病態生理、主な疾患</td></tr> <tr><td>14</td><td>老年医学、職業倫理:高齢者ケアの原則、高齢者によく見られる疾患</td></tr> <tr><td>15</td><td>高齢者の薬物療法、保険制度、職業倫理</td></tr> </table>					1	一般臨床医学概論:診療科区分、診断・検査法、治療法	2	医療安全、チーム医療、感染防止、診療録	3	救命救急医療:医療体制、心肺蘇生、ショック	4	呼吸管理、輸血、救急処置	5	外科総論:機械的損傷、非機械的損傷、感染性疾患、	6	血行障害、腫瘍、臓器移植	7	消化器、神経、筋・骨格疾患	8	泌尿器・生殖器疾患:解剖・生理、診断・検査法・主な疾患	9	婦人科・産科疾患:解剖・生理、主な疾患、妊娠、分娩	10	皮膚疾患:解剖・生理、症状・病態生理、主な疾患	11	眼疾患:眼の構造、検査法、症候、主な疾患	12	耳鼻咽喉科疾患:耳疾患、鼻疾患、咽頭・喉頭疾患、気道・食道疾患	13	精神、心療内科疾患、発達障害:症状・病態生理、主な疾患	14	老年医学、職業倫理:高齢者ケアの原則、高齢者によく見られる疾患	15	高齢者の薬物療法、保険制度、職業倫理
1	一般臨床医学概論:診療科区分、診断・検査法、治療法																																		
2	医療安全、チーム医療、感染防止、診療録																																		
3	救命救急医療:医療体制、心肺蘇生、ショック																																		
4	呼吸管理、輸血、救急処置																																		
5	外科総論:機械的損傷、非機械的損傷、感染性疾患、																																		
6	血行障害、腫瘍、臓器移植																																		
7	消化器、神経、筋・骨格疾患																																		
8	泌尿器・生殖器疾患:解剖・生理、診断・検査法・主な疾患																																		
9	婦人科・産科疾患:解剖・生理、主な疾患、妊娠、分娩																																		
10	皮膚疾患:解剖・生理、症状・病態生理、主な疾患																																		
11	眼疾患:眼の構造、検査法、症候、主な疾患																																		
12	耳鼻咽喉科疾患:耳疾患、鼻疾患、咽頭・喉頭疾患、気道・食道疾患																																		
13	精神、心療内科疾患、発達障害:症状・病態生理、主な疾患																																		
14	老年医学、職業倫理:高齢者ケアの原則、高齢者によく見られる疾患																																		
15	高齢者の薬物療法、保険制度、職業倫理																																		
評価方法	授業・グループワーク参加状況および項目ごとの課題シート(講義についての振り返り)提出により、総合的に評価する。																																		
自由記述 (メッセージ)	本授業は入学直後の開講であるため、初学者には臨床医学におけるな専門用語は難解である。できるだけ日常的な平易な言葉を使い、解りやすい説明していくたい。本講義の基本的知識が、関連する専門領域の授業への学習意欲につながることを期待する。																																		

実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科																																										
授業名,属性	内科学		必修	1年後期	20コマ・40時間																																								
担当教員	水野 一也	背景	基礎医学研究28年／臨床医8年																																										
授業形態	講義	実務家教員 である																																											
受講ルール	共通ルール																																												
受講条件	特になし																																												
教科書等	標準理学療法学・作業療法学 内科学 医学書院																																												
授業概要	<p>内科学は臨床医学の基礎となる領域です。他の疾患由来のリハビリであっても患者さんの中には内科疾患を併発している可能性があります。本授業を通して個々の患者さんの中でどのような病態が進んでいるのか、どのような点に注意したらよいのかを理解していただくことを目標とします。</p>																																												
狙いと到達目標	<p>慢性疾患の中でも高血圧症、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病について十分な理解をしていただきます。さらに内科疾患発症において共通基盤と考えられる慢性炎症と血管障害の役割について十分な説明を心がけます。</p>																																												
授業において実務経験をどのように生かすか	<p>基礎医学研究の中で獲得して来た知識と実際の診察室で経験した症例、事例を融合させることによって、さらにはよく遭遇する疾患について詳しく説明することによって内容を暗記するのではなく病態の理解につながる授業を目指します。</p>																																												
授業計画・内容	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>1</td><td>内科学総論</td></tr> <tr><td>2</td><td>内科学総論</td></tr> <tr><td>3</td><td>循環器疾患</td></tr> <tr><td>4</td><td>循環器疾患</td></tr> <tr><td>5</td><td>呼吸器疾患</td></tr> <tr><td>6</td><td>呼吸器疾患</td></tr> <tr><td>7</td><td>消化器疾患</td></tr> <tr><td>8</td><td>消化器疾患</td></tr> <tr><td>9</td><td>肝臓／胆道／脾臓疾患</td></tr> <tr><td>10</td><td>肝臓／胆道／脾臓疾患</td></tr> <tr><td>11</td><td>血液疾患</td></tr> <tr><td>12</td><td>血液疾患</td></tr> <tr><td>13</td><td>代謝疾患(とくに糖尿病、脂質異常症)</td></tr> <tr><td>14</td><td>代謝疾患(とくに糖尿病、脂質異常症)</td></tr> <tr><td>15</td><td>内分泌疾患</td></tr> <tr><td>16</td><td>腎臓／泌尿器疾患</td></tr> <tr><td>17</td><td>腎臓／泌尿器疾患</td></tr> <tr><td>18</td><td>免疫疾患</td></tr> <tr><td>19</td><td>免疫疾患</td></tr> <tr><td>20</td><td>感染症</td></tr> </table>					1	内科学総論	2	内科学総論	3	循環器疾患	4	循環器疾患	5	呼吸器疾患	6	呼吸器疾患	7	消化器疾患	8	消化器疾患	9	肝臓／胆道／脾臓疾患	10	肝臓／胆道／脾臓疾患	11	血液疾患	12	血液疾患	13	代謝疾患(とくに糖尿病、脂質異常症)	14	代謝疾患(とくに糖尿病、脂質異常症)	15	内分泌疾患	16	腎臓／泌尿器疾患	17	腎臓／泌尿器疾患	18	免疫疾患	19	免疫疾患	20	感染症
1	内科学総論																																												
2	内科学総論																																												
3	循環器疾患																																												
4	循環器疾患																																												
5	呼吸器疾患																																												
6	呼吸器疾患																																												
7	消化器疾患																																												
8	消化器疾患																																												
9	肝臓／胆道／脾臓疾患																																												
10	肝臓／胆道／脾臓疾患																																												
11	血液疾患																																												
12	血液疾患																																												
13	代謝疾患(とくに糖尿病、脂質異常症)																																												
14	代謝疾患(とくに糖尿病、脂質異常症)																																												
15	内分泌疾患																																												
16	腎臓／泌尿器疾患																																												
17	腎臓／泌尿器疾患																																												
18	免疫疾患																																												
19	免疫疾患																																												
20	感染症																																												
評価方法	基本的に期末試験100%																																												
自由記述 (メッセージ)	教科書のダイジェストであるプリントを用意してプリントに沿って授業を進めます。各論においては扱う疾患を絞り込み、一つ一つの疾患の本態を理解していただくことが大切であると考えます。加えて実臨床での問題点などを紹介します。																																												

## 実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科									
授業名・属性	整形外科学		必修	1年後期	20コマ・40時間							
担当教員	柳澤雅弘・阿部幸一郎 坂本千寿	背景 医学の基礎研究										
授業形態	講義	実務家教員 である										
受講ルール	共通ルール											
受講条件	特になし											
教科書等	標準理学療法学・作業療法学 整形外科学第4版											
<b>授業概要</b> 骨、関節の疾患と傷害について、その病態と治療について学ぶ。さらに骨折や脱臼に伴う神経や血管の損傷についても学ぶ。												
<b>狙いと到達目標</b> 整形外科疾患の専門用語が理解できる。基礎的な疾患の病態が理解できる。												
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b>												
<b>授業計画・内容</b>												
1	骨、軟骨、関節の構造 -柳沢											
2	骨格筋の構造と機能、神経系の構造、 骨・関節・筋・神経の病態生理 -柳沢											
3	運動器の評価法と検査法(問診、触診、検体検査、画像検査) -柳沢											
4	運動器の評価法と検査法(四肢長と周径、関節可動域、筋力・神経学的評価) -柳沢											
5	整形外科治療法(保存療法、手術療法) -柳沢											
6	炎症性疾患(関節リウマチは除く)、先天性骨・関節疾患 -柳沢											
7	骨、軟部腫瘍 -柳沢											
8	頸椎、胸椎の疾患 -柳沢											
9	腰椎の疾患 -柳沢											
10	脊髄損傷(病態、症状) -柳沢											
11	脊髄損傷(治療) -柳沢											
12	熱傷、切断および離断 -柳沢											
13	代謝・内分泌疾患、退行疾患 -阿部											
14	循環障害と壊死性疾患 -阿部											
15	神経筋疾患 -阿部											
16	骨折 -阿部											
17	関節における外傷性疾患 -坂本											
18	末梢神経における外傷性疾患 -坂本											
19	腱・韌帯における外傷性疾患 -坂本											
20	スポーツ障害 -坂本											
評価方法	筆記試験											
<b>自由記述 (メッセージ)</b>												

実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名・属性	神経内科学		必修	1年後期	20コマ・ 40時間
担当教員	渡邊 利明	背景	臨床・基礎研究および教育経験をふまえて医学教育に従事		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第4版 医学書院				
授業概要	症候学、疾患各論				
狙いと到達目標	神経解剖学・神経生理学の知識と理解に基づいた神経内科学の学習				
授業において実務経験をどのように生かすか	経験をもとに、最新の高等研究教育情報を用いて、眼前のベッドサイドを意識した教育方針をもつて医学教育を行う。				
授業計画・内容					
1	運動機能の障害 運動麻痺と筋萎縮、脊髄損傷の症候学①				
2	運動機能の障害 運動麻痺と筋萎縮、脊髄損傷の症候学②				
3	運動機能の障害 運動失調、不随意運動				
4	神経の障害 運動・自律系機能の障害				
5	高次脳機能障害①				
6	高次脳機能障害②				
7	中間試験				
8	脳血管障害 概観①				
9	脳血管障害 概観②				
10	脳血管障害 脳梗塞、脳腫瘍①				
11	脳血管障害 脳梗塞、脳腫瘍②				
12	外傷性疾患①				
13	外傷性疾患②				
14	神経変性疾患 脊髄小脳変性症①				
15	神経変性疾患 脊髄小脳変性症②				
16	脱髓性疾患①				
17	脱髓性疾患②				
18	ミオパチー(筋疾患)、先天性疾患、感染性神経疾患①				
19	ミオパチー(筋疾患)、先天性疾患、感染性神経疾患②				
20	まとめ				
評価方法	筆記試験と隨時行うレポート提出				
自由記述 (メッセージ)					

## 実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科					
授業名・属性	精神医学		必修	1年後期	20コマ・40時間			
担当教員	江口 聰	背景	精神科コメディカルとして10年勤務					
授業形態	講義	実務家教員	である					
受講ルール	共通ルール							
受講条件	特になし							
教科書等	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版(医学書院)							
<b>授業概要</b>								
精神医学の対象である精神疾患と障害に関する講義								
<b>狙いと到達目標</b>								
精神医学について総論的理解および各論にわたり知識を習得する								
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b>								
精神科における精神疾患の症状や原因、疾患に対するリハビリテーションの知識について、実務経験を活かして精神科多職種連携でコメディカルが必要とされる知識を特にピックアップするし、現場の話も併せて伝えることで授業に生かす								
<b>授業計画・内容</b>								
1	精神医学とは・精神障害の成因と分類							
2	精神機能の障害と精神症状							
3	精神障害の診断と評価							
4	脳器質性精神障害							
5	症状性精神障害・精神作用物質等							
6	てんかん							
7	統合失調症							
8	統合失調症							
9	気分障害							
10	気分障害							
11	神経症性障害							
12	神経症性障害							
13	生理的障害・身体的要因等							
14	成人の人格・行動等の障害							
15	精神遅滞・心理発達の障害							
16	リエゾン精神医学・心身医学							
17	ライフサイクルにおける精神医学							
18	精神障害の治療とリハビリテーション							
19	精神障害の治療とリハビリテーション							
20	精神保健福祉・職業リハビリテーション、社会・文化とメンタルヘルス							
評価方法	筆記試験							
自由記述 (メッセージ)	精神疾患は現在5大疾病にも数えられており身体的なリハビリの方でも、うつ状態などを経験している方が多くいらっしゃいます。そのため、精神科志望でなくとも今後につながる分野として参加していただけると幸いです。							

実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名・属性	小児科学		必修	1年後期	15コマ・ 30時間
担当教員	榎原 みゆき	背景	小児科診療に従事して25年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	教科書の指定はなし。授業中に配布するプリントに沿って講義を進める。				
授業概要	小児の成長発達、小児特有の疾患について症例提示をまじえながら系統的に講義する。				
狙いと到達目標	1. 小児の正常な発達、成長を理解する。2. 小児特有の疾患について理解を深める。3. 疾患を持つ小児、およびその家族や社会への関わり方を考える。				
授業において実務経験をどのように生かすか	単なる疾患の概念を解説するにとどまらず、小児科臨床の現場において経験した症例、家族との関わりなどを紹介しながら小児の疾患について理解を深めてもらいたいと考える。				
授業計画・内容					
1	小児科学概要				
2	小児の正常な発達・発育				
3	新生児の疾患				
4	同上				
5	遺伝性疾患				
6	同上				
7	感染症疾患				
8	同上				
9	精神疾患・発達障害				
10	神経学的疾患				
11	同上				
12	同上				
13	その他の小児科疾患				
14	同上				
15	まとめ				
評価方法	15回の講義終了後に行う期末試験の成績にて評価する。 講義の出席数や講義態度も成績評価の要素の一つとなる。				
自由記述 (メッセージ)	授業毎にプリントを配布する。各自整理して保存できるようにファイル等を用意するのが望ましい。 子供は小さな大人ではない。どんな分野に進むにしても小児に関しての理解を深めることは大切と考える。				

実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科					
授業名,属性	臨床心理学		必修	1年前期	10コマ・20時間			
担当教員	中村 実花	背景	心理カウンセラー歴7年					
授業形態	講義	実務家教員 である						
受講ルール	共通ルール+私語厳禁							
受講条件	特になし							
教科書等	特になし・適宜プリント配布							
<b>授業概要</b>								
臨床心理学の概要を知り、基礎理論を理解する。また、心理検査の実習を通して、実施方法と結果の解釈の仕方を学ぶ。臨床心理学の実際のプロセスについて知り、他職種連携への理解を深める。								
<b>狙いと到達目標</b>								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床心理学の基本的な考え方を理解できるようになる。</li> <li>・臨床心理学的なアセスメント方法を理解できるようになる。</li> <li>・実際の現場で臨床心理学的な視点をどのように活かすか考えることができるようになる。</li> <li>・自身のメンタルヘルスについて、臨床心理学的な視点から振り返ることができるようになる。</li> </ul>								
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b>								
臨床心理学的現象を、他人事としてではなく、私たちにも共通する身近なこととして捉えやすくなるように生かす。								
<b>授業計画・内容</b>								
1 臨床心理学の概要								
2 臨床心理学の基礎理論①精神分析・分析心理学								
3 臨床心理学の基礎理論②行動療法・認知行動療法								
4 臨床心理学の基礎理論③クライエント中心療法・種々の心理療法								
5 心理検査法①質問紙法								
6 心理検査法②知能検査法・神経心理学的検査								
7 心理検査法③投映法								
8 心理臨床の実際①援助を行う際に必要なこと								
9 心理臨床の実際②対人援助職のメンタルヘルス								
10 まとめ								
評価方法 期末テスト100%								
<b>自由記述 (メッセージ)</b> 本授業の内容を理解することに留まらず、これまで自分では考えもしなかった物事の捉え方や見方を知り、多角的に広い視野で考えられる人になってほしい。この授業が自分の心に向き合う大切な時間になるとよいと考えている。								

実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科																																																														
授業名・属性	リハビリテーション概論		必修	1年前期	20コマ・40時間																																																												
担当教員	中浦、藤田、遊佐、 松木、菅原、熊本 他		背景	全員実務経験教員、10年以上																																																													
授業形態	講義	実務家教員 である																																																															
受講ルール	共通ルール																																																																
受講条件	特になし																																																																
教科書等	なし																																																																
授業概要	リハビリテーションの理念や諸外国と我が国のリハビリテーションの歴史、分野、手段について学ぶとともに、我が国のリハビリテーションの現状についても学び、理解を深める。																																																																
狙いと到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーションの理念、諸外国と我が国のリハビリテーションの歴史、分野、手段について理解ができるようになる。</li> <li>・リハビリテーション・サービスに携わる専門職としての知識を身につけることができる。</li> </ul>																																																																
授業において実務経験をどのように生かすか	養護学校の教員の経験（病弱養護学校に2年、知的障害の養護学校に1年）を活かし、教育現場におけるリハビリテーションの実際を、実践を交えながら講義や演習の中に活かしていく。また、認知症高齢者のグループホームの立ち上げにも携わった経験から、高齢者におけるリハビリテーションの重要性等を実践を交えながら併せて講義や演習の中において活かしていく。																																																																
授業計画・内容	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>1</td><td>リハビリテーションの理念・歴史について(我が国・諸外国)</td><td>藤田</td></tr> <tr><td>2</td><td>「リハビリテーションの理念・歴史について」を踏まえた議論・ディスカッション</td><td>藤田</td></tr> <tr><td>3</td><td>リハビリテーションの分野・手段について(我が国・諸外国)</td><td>藤田</td></tr> <tr><td>4</td><td>理学療法サービス 理学療法とその実際①</td><td>遊佐</td></tr> <tr><td>5</td><td>理学療法サービス 理学療法とその実際②</td><td>遊佐</td></tr> <tr><td>6</td><td>理学療法サービス 理学療法とその実際③</td><td>遊佐</td></tr> <tr><td>7</td><td>障害受容を考える</td><td>中浦</td></tr> <tr><td>8</td><td>障害受容を考える</td><td>中浦</td></tr> <tr><td>9</td><td>言語聴覚療法サービス 言語療法とその実際①</td><td>松木</td></tr> <tr><td>10</td><td>言語聴覚療法サービス 言語療法とその実際②</td><td>松木</td></tr> <tr><td>11</td><td>医師から見るリハビリテーション</td><td>菅原</td></tr> <tr><td>12</td><td>医師から見るリハビリテーション</td><td>菅原</td></tr> <tr><td>13</td><td>看護師から見るリハビリテーション</td><td>熊本</td></tr> <tr><td>14</td><td>看護師から見るリハビリテーション</td><td>熊本</td></tr> <tr><td>15</td><td>看護師から見るリハビリテーション</td><td>熊本</td></tr> <tr><td>16</td><td>介護福祉士から見るリハビリテーション</td><td>品川</td></tr> <tr><td>17</td><td>介護福祉士から見るリハビリテーション</td><td>品川</td></tr> <tr><td>18</td><td>「リハビリテーションの分野・手段について」を踏まえた議論・ディスカッション</td><td>藤田</td></tr> <tr><td>19</td><td>リハビリテーションの変遷と現状について(我が国・諸外国)</td><td>藤田</td></tr> <tr><td>20</td><td>「リハビリテーションの変遷と現状について」を踏まえた議論・ディスカッション</td><td>藤田</td></tr> </table>					1	リハビリテーションの理念・歴史について(我が国・諸外国)	藤田	2	「リハビリテーションの理念・歴史について」を踏まえた議論・ディスカッション	藤田	3	リハビリテーションの分野・手段について(我が国・諸外国)	藤田	4	理学療法サービス 理学療法とその実際①	遊佐	5	理学療法サービス 理学療法とその実際②	遊佐	6	理学療法サービス 理学療法とその実際③	遊佐	7	障害受容を考える	中浦	8	障害受容を考える	中浦	9	言語聴覚療法サービス 言語療法とその実際①	松木	10	言語聴覚療法サービス 言語療法とその実際②	松木	11	医師から見るリハビリテーション	菅原	12	医師から見るリハビリテーション	菅原	13	看護師から見るリハビリテーション	熊本	14	看護師から見るリハビリテーション	熊本	15	看護師から見るリハビリテーション	熊本	16	介護福祉士から見るリハビリテーション	品川	17	介護福祉士から見るリハビリテーション	品川	18	「リハビリテーションの分野・手段について」を踏まえた議論・ディスカッション	藤田	19	リハビリテーションの変遷と現状について(我が国・諸外国)	藤田	20	「リハビリテーションの変遷と現状について」を踏まえた議論・ディスカッション	藤田
1	リハビリテーションの理念・歴史について(我が国・諸外国)	藤田																																																															
2	「リハビリテーションの理念・歴史について」を踏まえた議論・ディスカッション	藤田																																																															
3	リハビリテーションの分野・手段について(我が国・諸外国)	藤田																																																															
4	理学療法サービス 理学療法とその実際①	遊佐																																																															
5	理学療法サービス 理学療法とその実際②	遊佐																																																															
6	理学療法サービス 理学療法とその実際③	遊佐																																																															
7	障害受容を考える	中浦																																																															
8	障害受容を考える	中浦																																																															
9	言語聴覚療法サービス 言語療法とその実際①	松木																																																															
10	言語聴覚療法サービス 言語療法とその実際②	松木																																																															
11	医師から見るリハビリテーション	菅原																																																															
12	医師から見るリハビリテーション	菅原																																																															
13	看護師から見るリハビリテーション	熊本																																																															
14	看護師から見るリハビリテーション	熊本																																																															
15	看護師から見るリハビリテーション	熊本																																																															
16	介護福祉士から見るリハビリテーション	品川																																																															
17	介護福祉士から見るリハビリテーション	品川																																																															
18	「リハビリテーションの分野・手段について」を踏まえた議論・ディスカッション	藤田																																																															
19	リハビリテーションの変遷と現状について(我が国・諸外国)	藤田																																																															
20	「リハビリテーションの変遷と現状について」を踏まえた議論・ディスカッション	藤田																																																															
評価方法	レポート課題、振り返りシート等にて評価																																																																
自由記述 (メッセージ)	活字離れが指摘されている現代、新聞などで、活字に触れ、常に社会の情勢について目配り、気配りできるように心がけて日常生活を送るように心がけてほしい。																																																																